⑦間　組　におけるシステム開発の方針と現況について

(株)間　組　　早川　保　　大屋　悟
山下雅市　　木下寿昌

１．まえがき

当社においては，昭和４３年に電算機導入を前提とした『システム開発室』が設置された。その報告書をもとに，大型電算機の導入と全社的な原価管理・工事管理のシステム等が実現したのは，昭和４７年である。

現在では，経理・原価計算・資機材管理・設計計算・見積り積算・工程管理その他　あらゆる部門で電算機が利用されている。

ここでは，現在　当社が取り組んでいる「第二次システム開発５ケ年計画」の一端を紹介する。

２．第二次システム開発の方針

基本方針は，電算機の有効利用により，個別および総合的な，仕事の質と生産性の向上，さらにコストダウンを図ることである。

この「５ケ年計画」は，中期的な立場のものであり，短期的には，必要に応じて　電算部が中心になり，その都度　プログラムの開発・改善を行っている。

また，当社では　電算委員会を常設し，実行計画などの提案・審議・推進にあたっている。

この中期計画では，マネジメント・システムをトータルな形で構築することを指向しながら，個別システムの充実を，当面の目標としている。

具体的には

１）社内各部署からの提案テーマ（計８８件）から重要度・緩急度等により，１７テーマを，新規開発テーマとして選び，システム開発に取り組む。

２）本店一括集中処理方式を，分散処理方式に改める。（大幅な機器の更新，増設および支店に大型分散処理機の設置）

３）利用者が利用しやすい処理形態への改善
（分散処理・ＯＡ化・オフコン等の教育）

などである。

３．第二次システム開発の対象

取り上げられた新規テーマは，次の通りである

・企画・積算システム－－－－－９テーマ
・施工計画システム－－－－－－１テーマ
・見積り積算システム－－－－－３テーマ
・経営管理システム－－－－－－１テーマ
・情報検索システム－－－－－－３テーマ

この中で，設計システムについては，一部　外注または購入を，考えている。

工事関連では，見積り積算・施工計画・情報検索システムがある。例えば，情報検索システムでは，現在　保有しているシステムが，カナ文字であるものを，漢字処理とし，特殊工法，技術情報も，加えたものにする。

４．システム開発に投入する費用と効果

当社では，システム開発に着手するには，実行計画書を，電算委員会に提出し，承認を得ることとなっている。それには，開発テーマの内容と開発方法（自社，外注，購入の別），予算，期間，期待効果などが，明示される。

予算については，開発テーマの内容，程度によりかなり正確に見積られる。また，期待効果は，定性効果と定量効果（金額）で表され，従来作業との比較で示されるが，実際には，金額だけでなく，業務の質の向上，あるいは，波及効果のようなものも大きく，定性的な面の比較は，かなり面倒である。

５．あとがき

マネジメント・システムを考えるとき，電算機の普及が，急速で，我々自身　とまどう場合がある。時には　現状の理解・解析が不充分なまま，システム開発という名のもとに，電算機の導入が図られ，利用に際して，かなりの誤解が起きた場面もある。

基本的には，個別システムを充実させてゆけば，その集合体としての，トータル・マネジメント・システムの構築が，将来的に展望できるとしている。